

事務事業評価シート 平成 27 年度事後評価・決算

平成 29 年 2 月 22 日時点

事務事業名				コード	23100 園芸用廃プラスチック処理対策事業	予算科目	会計	款	項	目	所管課	農水産課	担当班	振興班
実施体系				基本施策	23 良質な環境の保全	根拠法令	一般	6	1	3				
				施策の展開	42 きれいなまちづくりの推進	戦略事業	207 園芸用廃プラスチック処理対策事業							
				施策の展開		戦略事業								

(1) 事務事業の概要

① 事務事業の期間		② 事務事業の内容 ※何をどのようにする事務事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない	
☒ 単年度繰返 ☒ 平成 9 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで		農家が使用済みとなった農業用ビニールやポリエチレンなどの園芸用廃プラスチック(以下、廃プラ)の適正な処理を図ることにより、資源の有効活用、農村環境の保全及び施設園芸の健全な発展を目的としている。ちばみどり各営農センターにおいて農家から搬入された廃プラを取りまとめ、放射線量測定を行い、処理工場(千葉園芸プラスチック加工㈱)東金市へ搬入している。(全15回/年)また、処理手数料(40.7円/kg)に対し、補助金が交付されている。千葉県9.8円/kg、旭市10.8円/kg、JA全農千葉9.8円/kg(生産者負担10.3円/kg)	
③ 事務事業開始の経緯・事務事業の現状		④ 事務事業に関する課題・環境の変化	
1997年12月の廃棄物処理清掃法の改正に伴い、農業廃プラの適正処理が義務化され、全国多くの市町村で適正処理対策協議会が設立された。当時の1市3町はちばみどり各営農センター内に園芸用廃プラスチック対策協議会を設置し、市町合併後においても協議会は個別に存続している。		近年、再生処理可能な塩化ビニルフィルムが減少し、焼却処分の対象であるポリオレフィン系フィルムが増加している。焼却処分には処分費用がかかるため、千葉園芸プラスチック加工㈱の経費負担が重くなっている。また、廃プラの不法投棄を防止し、資源の有効利用を図るためには、再生処理における農業者負担を軽減する必要がある。(現在の生産者負担は1/4である。)	
⑤ 事務事業に対する住民からの意見等		当事業にて処理ができる廃プラはポリオレフィン系フィルムと塩化ビニルフィルムの2種類のみである。そのため、ポリエステルフィルムや硬質プラスチックなどの廃プラも対象として欲しい。【JAより】	

(2) コスト・特定財源の状況

① 事業費の詳細(27年度の決算)		単位:千円		単位	24年度(決算)	25年度(決算)	26年度(決算)	27年度(決算)	28年度(予算)
1. 需要費	24	2. 消耗品費	24,200円	1. 需要費	0	24	23	24	27
2. 負担金補助及び交付金	6,993	3. 園芸用廃プラスチック適正化処理対策事業補助金		2. 負担金補助及び交付金	6,833	7,337	7,799	6,993	8,446
	0								
	0								
	0								
② 特定財源の内訳(27年度の決算)		単位:千円		事業費計 (A)					
1. 国庫支出金	0				6,833	7,361	7,822	7,017	8,473
2. 都道府県支出金	3,326	3. 園芸用廃プラスチック適正化処理対策事業補助金		1. 国庫支出金	千円				
3. 地方債	0			2. 都道府県支出金	千円	3,245	3,485	3,710	3,326
4. その他	0			3. 地方債	千円				4,018
				4. その他	千円				
				5. 一般財源	千円	3,588	3,876	4,112	4,455

前年度増減理由	処理量の減少
---------	--------

従事職員数	常時	2人	最大	2.1人	×	15日	=	延べ	31.5人
-------	----	----	----	------	---	-----	---	----	-------

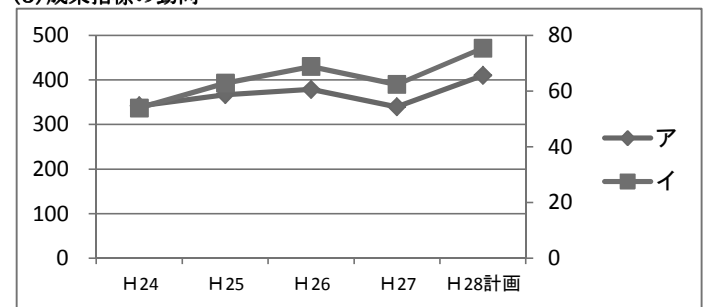
(3) 事務事業の手段・目的と対応する指標

手段	① 主な活動	⇒	③ 活動指標名	単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
	27年度実績(27年度に行った主な活動)		ア 廃プラ回収日数	日	16	15	17	15	15
目的	② 対象・意図(対象がどのような状態になるのか)	⇒	④ 成果指標名	単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
	対象意図 園芸用廃プラスチックの適正処理量(旭市)		ア 千葉園芸プラスチック加工㈱への搬入量(旭市)	t	341.7	366.9	378.6	339.5	410.0
	対象意図 農村環境の保全		イ 1年間に廃棄される園芸用の廃プラのうち千葉園芸プラスチック加工㈱へ搬入される割合(旭市)	%	53.9	62.8	68.8	62.4	75.4
	対象意図 資源の有効活用		イ 搬入量/年間廃棄量×100						

(4) 事務事業優先度評価の結果

① 成果優先度評価結果		② コスト削減優先度評価結果	
施策貢献度	成果向上余地	評価結果	コスト比率
	かなりある		下位 1/3
	ある程度ある		中位 1/3
	ほとんどない		上位 1/3
大きい		①	
普通		②	
小さい		③	
		④⑤	
		⑥	
		⑦⑧	
		⑨	

(5) 成果指標の動向



(6) 事務事業に関する評価

評価内容	① 進捗状況	☐ 完了 ☐ 順調 ☒ 概ね順調 ☐ 停滞 ☐ 実施困難				
	【コメント】(停滞・実施困難の場合、その理由)					
	② 成果の状況	成果指標ア	成果指標イ	成果指標のタイプ	数値増＝成果向上 ☐ 向上 ☐ 横ばい ☒ 低下	比較
	【コメント】(低下の場合、その理由)	近年、ビニルハウス等に使用されるポリオレフィン系フィルムの品質の向上によって、耐用年数が延びたことが要因と推測される。				
③ 今年度取組事項(今年度新たに取り組む事項について記載)	時期	内容			今後の方向性	
	年度内	例年どおり実施			☐ 拡大 ☒ 現状維持 ☐ 見直し ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ その他 ()	農業用廃プラスチックの不法投棄防止の観点から、この事業は継続していかねばならない。